

第1学年○組・○○保育園・○○幼稚園 交流活動指導案

場所 1年○組・2年○組(○○小)
 指導者 斎田由加理(○○小学校)
 ○○(○○保育園) ○○(○○幼稚園)

研究主題	人とのかかわりを深めたり広めたりする支援のあり方 ～異年齢交流における、季節を生かした共遊びを通して～
------	--

《 第 1 学 年 》

1 単元 「あきからのおくりもの」

2 単元の目標

目 標	観 点
公園で自然に親しみながら秋を探し、楽しく遊ぼうとする。 木の葉や木の実で、遊ぶ物や飾る物を進んで作ったり、遊んだりしようとする。	生活への 関心・意欲 ・態度
秋らしいと感じたことを言葉や絵で表現することができる。 自分なりに工夫して遊ぶものや飾るものを作ることができる。	活動や体験についての思考・表現
校庭や公園の自然物に目を向け、季節の変化や特徴に違いがあることに気付く。 木の葉や木の実には、色や形・大きさなどに違いがあることに気付く。	身近な環境や自分についての気付き

3 指導にあたって

本学級の児童（男 17 名、女 16 名）は入学してまもなくアサガオの種を蒔いた。その世話を観察を通して、植物や動物に対する関心が高まり、同時に、季節の移り変わりを楽しんでいる。10月初めには、遠足に行った県植物園で、自然に包まれ、体全体で秋を感じてきた。

本単元では、身近にある「少年の森」へ出かけ、秋からの贈り物の落ち葉や木の実を拾い、夏から秋への季節の変化に気付いたり、秋を楽しみ、自然と親しんだりすることをねらいとしている。

さらに、秋という季節に、どんなことを考え、どんな時間を過ごしてきたか、今までの生活経験を思い起こさせ、読書活動、芸術活動、遊びなどへと活動を広げながら、友達や 2 年生、年長児とふれあう心地よさを感じさせていきたい。

5 人間関係づくりのために

本学級では、児童の出身園（所）は 15 にのぼる。そのため、入学はじめの人間関係作りのために、あいさつゲームなどの構成的グループエンカウンターを行ってきた。

また、今回、遠足や園外保育と同じ場所であることを接点として異年齢の交流が始まった。秋いっぱいの「少年の森」で小学生がドングリを拾ったり、アスレチックで遊んだりする様子を見ていた年長児から「楽しそう。」「一緒にやってみたい。」とのつぶやきが聞かれ、自然と一緒に遊ぶことができ、和やかな雰囲気の中でお互いを知り合うことができた。1 年生からも「一緒にドングリを拾って楽しかった。」の感想に加え、「優しく教えてあげられた。」と思いやる気持ちや「保育園のお友だちが、がんばっていた。」と認める声も聞かれた。年長児と「また遊ぼう。」と約束する児童の姿も見られた。

一方、1 年生の児童は、これまでに保護者の読み聞かせだけでなく、図書委員など上級生による読み聞かせや「おはなしキャラバン隊」の読み聞かせを通して、人と人とがつながる楽しさを味わってきており、

4 学習計画 生活科 15 時間取り扱い

次 時	活 動 内 容
一 あき を み つけ よう	いろいろなあきをみつけよう ・葉の色が変わったね ・たね取りをしたよ ・芋掘りがあるよ ・読書の秋だよ
3 5 7	少年の森へ出かけよう ・この木は何という木かな ・落ち葉がいっぱい ・ドングリがあったよ ・赤い葉っぱ、黄色い葉っぱ ・枯れ葉のにおいは？ ・枯れ葉を踏むと音がするよ ・いろいろな形のドングリがあるよ
二 葉 つ ぱ や 木 の 実 で 遊 ぼ う	こんな遊びができるよ ・葉っぱでお面に・プローチ・コマ ・やじろべえ・リース・しおり等
3 4	一緒に遊ぼう I ・あきからのおくりもので遊ぼう ・楽しかったね
5 6	招待しよう
7 8	一緒に遊ぼう II ようこそ あきランドへ（本時） ・楽しかったね

《保育園・幼稚園》

○○保育園	○○幼稚園
学区内 私立 男 13 名 女 13 名 《交流活動に期待すること》 子供同士の交流を通していろいろな問題を見つけ、保育士と教師自身が理解し合いたい。そして、保育の質の向上につなげたい。	市内 私立 男 3 名 女 4 名 《交流活動に期待すること》 一人っ子が多くなっている現在、兄弟体験することを重視し、20 数年縦割りの保育を行っている。小学校に入学しても、困ったら助けてくれるお兄ちゃん・お姉ちゃんがたくさんいるということを知り、安心してほしい。そして幼稚園とは違う施設で、一緒に楽しく遊んでほしい。
また、今まで園児だけではできなかった秋の遊びや、木の葉や木の実を使ったおもちゃ作りなど、小学校という場所で、1 年生と一緒に活動させたい。それが、子供たちの活動の幅を広げるよい経験になると思う。	さらに、この活動により、子どもたちが安心して学校の生活を始めるきっかけとなってほしい。
9月 遠足 (ブドウ狩り) さつま芋掘り	9月 遠足（県植物園）
10月 運動会 園外保育 (少年の森)	10月 ドングリ拾い
11月 やきいも会 小学生と遊ぼう	11月 小学生と遊ぼう

秋の校内読書週間が始まり一段と読書への関心が高まってきた。一部の児童は、昨年度、幼稚園児の時に、現在の 2 年生に「おはなし会」をしてもらった体験もあり、「自分たちもやってあげたい。」という思いも強まっている。

そこで、今回、互恵性のある活動となるように、教師同士も交流を深め、共通理解を図りながら、木の葉や木の実を使って遊んだり読み聞かせをしたりする場を設定した。

その中で、年長児が、初めての場でも安心して活動できる和やかな雰囲気を作り、楽しく活動し、1 年生とのかかわりを築いていくようにしたい。1 年生としては、共に遊ぶことで、年長児と 1 年前の自分を重ね合わせて、自分の成長に気付かせたい。また、相手に喜んでもらえるように工夫したり、あるいは、喜んでもらった満足感を味わったりしながら、友達や年長児とのかかわりを深めたり広めたりさせたい。

6 本時の学習

(1) 目標

1年生	年長児
<ul style="list-style-type: none"> 木の葉や木の実を使って、友だちや年長児と楽しく遊んだり優しくふれあったりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然に触れ、季節の変化に気付き、自然物を使って仲良く1年生と様々な遊びをしようとする。

(2) 準備

木の葉 木の実 サツマイモ サツマイモのつる 紙コップ ビニールテープ 穴あけの道具 ボンド つまようじ
シール リボン 画用紙 色画用紙 カラービニール袋 ガムテープ 両面テープ たこ糸 ペン 説明カード

(3) 展開

予想される児童の活動・発想・気付き	1年生	年長児	コーナー名	1年生	年長児
<p>1 本時の学習のめあてを確かめる。 あきランドで なかよく あそぼう</p> <p>2 はじめのかいをする。 ・はじめの言葉 ・一緒に歌おう</p> <p>3 秋を紹介しあう。</p> <p>4 一緒に活動する。 上手に紹介できるといいな? こまを作って遊ぼうよ。 ドングリこま</p> <p>5 おわりのかいをする。 ・感想を発表しよう ・終わりの言葉 また 緒に遊びたいね。</p>	<p>1年生 年長児</p>			<ul style="list-style-type: none"> ○教科の支援②コミュニケーションを高めるための支援□評価 ○「歓迎の言葉」を話すことで、本時の学習課題を確認する。 ○ お話を読むことの好きな児童が「秋のお話」をすることで季節を感じながら、あきランドが始まられるようにしたい。 ○ 秋の紹介する時に、自信をもって活動できるように、事前に声の大きさや速さに気を付けて話すよう助言しておく。 ○ お互いの紹介の後には、自分の感想を話したり、年長児の感想を聞いたりすることで、ペアになった年長児と楽しい雰囲気を作り、次の活動にスムーズに移れるようにしたい。 ○ 作ろう・遊ぼうタイムでは、それぞれのコーナーの紹介の後、ペアになっている年長児にやりたいコーナーを聞いて連れて行くように支援する。さらに、自分のコーナーにきた年長児に、説明カードを見ながら優しく教えることができるよう助言する。 ○ 秋の自然を感じながら、楽しく活動できるように、それぞれのコーナーには十分な材料を用意しておきたい。 ○ ドングリこまややじろべえなどをを作る時には、決められたコーナーで、安全に道具を使うことを確認する。 <p>■ 活動を通して友だちや年長児と楽しく遊んだり優しくふれあったりしようとしている。(行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 行動に移れないでいる児童には、2年生と一緒に活動した経験を思い出すよう声かけをして、年下の子へ優しく言葉かけをしたり、制作を手伝ったりできるように支援する。 ○ 友だちや年長児に優しくできる子、進んで活動できる子をほめ、他にも広めていきたい。 ○ 感想を発表することで、一緒に活動した友だちや年長児のがんばりに気付き、互いの良さを認め合い、満足感を次の活動への意欲付けとしたい。 ○ 次の約束などの話をしながら、和やかな雰囲気で見送りをしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境等③人間関係への支援 ○ 知っている歌を元気に歌うことで、緊張感を和らげたい。 ○ 秋の紹介を聞く際、興味がもてるよう一人一人の園児の様子をみながら声かけをしたい。 ○ 子どもの感情の表現やつぶやきを受け止めながら、1年生への憧れの気持ちが高まるような言葉かけをしたい。 ○ 安全に気を付けて活動できるように声かけをする。 ○ 自分の遊びたいコーナーを選べないでいる子には、友達の様子を見たり、1年生に聞いたりして、活動を楽しむことができるよう声かけをする。 ○ 自分の思いをうまく言えない子には言葉を引き出せるように配慮する。 ○ 共同の用具を大切に譲り合うように知らせる。 ○ 1年生やほかの幼稚園・保育園のお友達と楽しく遊んだことを互いに共感することで、次の交流活動への期待を高めたい。

7 今後の予定

「楽しかったね」では本時の活動を振り返り、年長児とかかわった楽しさや自分の成長に気付かせたい。そして、交流活動の感想をお便りなどで伝え合い、冬の交流活動（がっこうへようこそ）へつなげたい。